

本校の使命	
校訓	自律・協同・創造
教育方針	主体的な姿勢と協調の精神をもって、常に新しい時代を切り拓き、豊かに生きていこうとする姿勢を育む。
教育目標	1. 自己の目標に向かう上で、自己を律することができる力を育てる。 2. 自己の役割を考えた上で、協調・協力することができる態度を育てる。 3. 自己の実現を目指す上で、豊かな生き方へと創意工夫する態度を育てる。



自己評価算出方法

- ①各学校評価実施項目ごとに教職員・生徒・保護者アンケート結果によりそれぞれ評価値平均を算出
- ②①で算出した平均を評価項目ごとに平均し総平均とする
- ③総平均値が3.2以上→A、3.0以上→B、2.8以上→C、2.8未満→D

4段階評価 4…強く思う・よく当てはまる 3…そう思う・ある程度当てはまる 2…あまりそう思わない・あまり当てはまらない 1…全くそう思わない・まったく当てはまらない

※【評価】 A…良い B…まあ良い C…あまり良くない D…良くない

目指す学校像	◎地域から信頼される、魅力と活力のある学校づくりの推進
	1 一人一人の生徒を大切にす支援体制の充実
	2 生徒の主体性を育む教育活動の推進
	3 生徒の学びの質を高めるための授業改善の推進
育てたい生徒像	4 地域との協働による魅力化の推進
	1 自他の人権を尊重し、差別をなくす実践力のある生徒。
	2 自己管理ができ、諸活動に対して主体的に取り組む生徒。
	3 「生きる力」となる学力を身に付け、たくましく自己実現を目指す生徒。
目指す教職員集団像	4 社会の一員であることを自覚し、よりよい社会の実現のために貢献する生徒。
	1 ひとりひとり意欲的に ～よし、がんばろう
	2 楽天的に ～みんなできれば、なんとかかなる
	3 たのしく、元気に、 ～同じことなら、楽しもう

重点指導目標	評価番号	学校評価実施項目	目標達成のための方策	分掌	自己評価 関連アンケート番号							自己評価 概評と改善策	学校関係者評価
					教職員	平均	生徒	平均	保護者	平均	総平均		
1 ・基本的な生活習慣・学習習慣の確立を推進する。	①	自律的行動と礼節ある態度の育成	言葉遣いや立ち振る舞い、挨拶や頭髪、服装の指導	生徒 学年	⑬ ⑭ ⑮ ⑯ 29 30 29 31	3	⑦ 32	3.2	⑥ 30	3	3.1 B	3.2 A ・挨拶や服装・頭髪の指導は、学年会とも連携をとり、学年集会等の機会を使って指導していきたい。また、携帯電話の使用ルールや自転車交通ルールについても引き続き指導が必要である。 ・生徒自己管理手帳「大夢」の今の使い方は時間割や課題の確認にとどまっている。まずは2月に全校で意識的に使わせ、見通しを立てて生活する良さを実感させていきたい。 ・生徒の心身両面の健康状況の把握に努め、保護者・担任との連携も図られていると思う。また、安全管理体制も確立されている。 ・支援を必要とする生徒への対応フローチャートを作成した。担任等との連携を一層図るとともに、教職員間の情報共有に努めたい。	・家庭学習について、やる子とやらない子で二極化が顕著である。タブレットで取り組めるデジタル教材の活用も進めているが、バランスが大切だと思う。 ・中学では、時間割をタブレットで写し、全員に送信している。課題も送信するように検討している。 ・基本的な学習習慣の確立が急務と思われる。高校内だけの学習では「学力」が定着しないので、とりわけ家庭での学習時間の確保と実質化の工夫が必要だと思う。 ・「大夢」の役割を各個人の端末で管理できないだろうか。
	②	マナーやモラルの向上	・携帯電話やインターネット利用法の指導 ・外部の協力を得て、街頭指導や自転車点検を行い、交通ルール遵守の徹底を図る。	生徒	⑯ ⑰ 32 32	3.2	⑩ 32	3.2			3.2 A		
	③	基本的学習習慣を確立と家庭学習習慣の定着	・手帳「大夢」を日常的に活用させ、自己管理を行わせる。また、自己実現に向けての到達目標を設定させ学習に対する意識を高め、主体的に学習に取り組む姿勢を身につけさせる ・学年会、教科会との連携を密にする	学年 教務	⑩ ⑫ ⑬ ⑭ 28 29 28 33	3	① 28	2.8			2.9 C		
	④	健康の維持増進と安全管理体制の確立	・保健便りを定期的に発行する ・心身両面の健康状態の把握に努め、保護者・担任・学校医との連携を図る ・校内の緊急連絡体制を確立するとともに計画的に安全点検を実施する。	保健	⑲ ⑳ 36 33	3.5	⑭ 33	3.3	⑦ 29	2.9	3.2 A		
	⑤	生徒支援の充実	・支援を必要とする生徒について、担任・保護者・保健室・他機関との連絡を密にし、早期対応に努める ・特性や困難に応じた合理的配慮を拡充するとともに学習に取り組みやすい環境に整備する	保健	㉑ 35	3.5					3.5 A		
2 ・個の目標と集団の目標をリンクさせ、ともに努力する体制を整える。	⑥	各種行事・式典の充実	・しまね教育の日に合わせた行事の充実を図る ・式典や学校行事や諸会議など、全教職員の協力体制を築きながら効果的な運営に努める	総務	① ⑥ 34 34	3.4					3.4 A	3.3 A ・コロナ禍で縮小されていた各種学校行事もコロナ禍前の状態に戻し無事実施できた。しまねの日に合わせた清掃活動は、今後も地域と連携しながら実施していきたい。 ・いじめの早期発見・早期対応に組織的な協力体制のもと取り組むことができた。 ・学校行事等の集団活動や学校生活におけるルール決めて、今後も生徒会を中心に生徒の主体性を尊重し、それを引き出すような支援をしていきたい。 ・人権教育は、その目標実現に向け年間計画に沿って実現できた。 ・ボランティア活動は、地域からの依頼があればJRC部に依頼したり、全校生徒に公募したりしながら自発的な参加を促した。 ・清掃については、保健委員による啓発活動も計画していきたい。	・女生徒の化粧が目立つ。これが普通という感覚になっているのではないか。家庭での指導も必要ではないか。 ・自転車通学者でワイヤレスイヤホンをつけている生徒が見受けられる。 ・「生徒への過干渉」と「自律の精神の育成」は両極ですが、その間にある良い塩梅を模索していくためにも、生徒たちにマナーやモラルの向上に向けた改善策・提言(場合によっては校則の改正)を考えてもらうのは第一歩としていかがでしょうか。 ・部活動間交流で生徒相互の理解と支援を得る。他のクラブ(サークル)の活動現場を訪問して、時にはディスカッションなどを行い、互いを理解し合うことで共同体感覚も芽生える。各部のキャプテン会議で互いに抱える問題点や情報交換を行い切磋琢磨しては如何でしょうか。
	⑦	いじめ防止	・いじめ防止と実態把握に努め、問題があれば組織的かつ速やかに対応する。	生徒	⑱ 34	3.4					3.4 A		
	⑧	自分が果たすべき役割意識と望ましい人間関係の形成	・諸活動に参加させ集団や社会に貢献しようとする意識と態度を育成する ・学校行事や部活動等における集団活動を支援する	生徒 学年	⑭ ⑲ 33 33	3.3	⑧ 32	3.2			3.3 A		
	⑨	自他の人権が尊重される学校人権意識の育成	・相手を思いやる発言や態度を心がけさせ、互いに認め合い高め合う人間性を育てる ・生徒の人権意識について実態把握に努め、学校生活のあらゆる機会をとらえて人権教育の推進を図る	図書 学年	⑳ 31	3.1	⑫ 33	3.3			3.2 A		
	⑩	学校内外での活動の活性化	・生徒会や委員会活動など生徒の主体的活動を支援する ・地域でのボランティア活動など課外活動への参加を奨励し、環境を整える	生徒 図書	⑮ ⑳ 35 31	3.3	⑨ 32	3.2			3.3 A		
	⑪	環境衛生・美化の推進	・保健委員・全教職員の協力により美化意識の高揚に努める ・時間いっぱい清掃に取り組ませる	保健	㉑ 33	3.3	⑮ 34	3.4			3.4 A		
3 「豊かに生きる力」につながる学力の育成 ・地域協働学習を通して、生徒自身で未来をデザインする力を育成する。	⑫	地域協働学習の充実	・地域協働学習の一層の充実を図り、学びを社会に生かそうとする態度を養う ・総合的な探究の時間を軸とした探究的な学びを推進する	教務 図書	㉒ 32	3.2	⑥ 32	3.2	④ 32	3.2	3.2 A	3.2 A ・地域をフィールドとした探究学習の中で、地域が直面する問題について考える機会を持つことで、ある程度の社会貢献意識は醸成されつつある。 ・学力の向上と充実に向けた教務部と学年部の連携が必要。 ・小論文・面接指導は、全教職員の協力で充実したものになった。 ・Webシステムを利用した模試成績の情報提供を試みたが、活用しづらく改善したい。 ・1年生対象の地元企業ガイダンスなどや、2年生対象の関西研修旅行は充実したものに、高評価を得た。 ・図書館で本に触れる環境をより充実させることで読書意欲を高揚させていく一助になることを期待したい。 ・生徒一人一台端末2年目となりICT活用の頻度は高まった。PC機器の保守管理の重要性が一層高まった。 ・学校HPの充実を図るだけでなく、インスタグラムも併用することで情報発信を活発にした。 ・PTA活動は、今はどちらかというとT主導なので、無理のない範囲でP主導に移行したい。	
	⑬	学力の向上と充実	・公開授業と生徒による授業アンケートの実施 ・教科主任会、教科会、学年会等に情報提供を積極的に行い、緊密に連携をとり、学力の定着・向上のための方策を検討し、実践する ・各学年会での学力分析会、進路検討会を充実させ教員間で共通理解を図る ・模試、補習、小論文指導、面接指導、個別学習指導等を効果的に実施する	教務 進路	⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑲ ⑳ ㉑ 30 30 29 33 28 34	3.1	② ④ 35 32	3.4	① 31	3.1	3.2 A		
	⑭	3年間を見通したキャリア教育の充実	・魅力ある教育課程の編成を行う ・早期の進路目標の確立を促し、その実現に向け、2年生の研修旅行を充実させるとともに、看護体験等様々な教育活動を支援する ・地域の企業や上級学校の見学、大学生や社会人の体験談を聞く機会を設ける ・進路講演会、進路資料などを通じて的確な進路情報を提供する ・個人面談等を通じて、生徒理解に努め、きめ細かい個に応じた進路指導を実施する	進路 学年	㉒ ㉓ ㉔ 35 32 33	3.3	③ ⑤ 34 34	3.4	② ③ 31 31	3.1	3.3 A		
	⑮	図書館利用の促進	・図書館を活用した学びの支援を図る ・校内ビブリオバトル大会、生徒図書委員会、読書指導、広報活動等を通して生徒の読書意欲の高揚を図る	図書	㉕ 31	3.1	⑪ 26	2.6			2.9 C		
	⑯	地域・保護者と連携した学習体制の充実	・HPの充実、PTA通信や平高通信の発行により地域や保護者の学校理解を深める。 ・PTA主催行事の内容充実を図り、会員参加率の向上を図る。 ・各種奨学金制度に基づく生徒の学習支援体制を充実させる。	図書 総務	② ③ ④ ⑤ 33 35 34 34	3.4	⑬ 33	3.3	⑤ ⑧ ⑨ ⑩ 28 30 30 29	2.9	3.2 A		
⑰	ICT機器活用の推進	・校内LAN、ICT機器等の保守管理に努め、教員個々のニーズに応える。また、生徒の授業におけるICT機器の利用促進を図る	図書	㉖ 34	3.4					3.4 A			